

上記の書籍について、訂正箇所がございました。以下に訂正致します。

2005年4月現在の変更点

11ページ（図「出芽酵母の栄養増殖時の形態」説明文2行目）：

（誤）胞子は**胞子のう**に囲まれた立体構造をとっているため
→（正）胞子は**子のう**に囲まれた立体構造をとっているため

11ページ（「1-2 酵母の生活環（life cycle）」9行目）

（誤）**胞子のう**を形成している。胞子の外壁は**胞子のう**より強い構造になっており、
→（正）**子のう**を形成している。胞子の外壁は**子のう**より強い構造になっており、

12ページ（図「出芽酵母（ヘテロタリズム株）の生活環」）

（誤）**胞子嚢**
→（正）**子のう**

26ページ（「5-1 菌体の保存法」3行目）

（誤）また、**15%**のグリセロールに懸濁し
→（正）また、**15% (v/v)** のグリセロールに懸濁し

27ページ（「コメント」5行目）

（誤）OD600=0.5以下で**1.3**×…
→（正）OD600=0.5以下で**1.4**×…

35ページ（表「drop out mixの組成」）

（誤）グリシン (**L-Glycine**)
→（正）グリシン (**Glycine**)

37ページ（「例」1～2行目）

（誤）トリプトファン、ロイシン、ヒスチジン要求性培地（**SD**-Trp-Leu-His）を用いて**リプトファン**、ロイシン要求性培地（**SD**-Trp-Leu）を作る場合
→（正）トリプトファン、ロイシン、ヒスチジン要求性培地（**SC**-Trp-Leu-His）を用いて**トリプトファン**、ロイシン要求性培地（**SC**-Trp-Leu）を作る場合

37ページ（「例」5行目）

（誤）**SD**-Trp-Leu-Hisのシャーレに**トリプトファン**（10g/l）を
→（正）**SC**-Trp-Leu-Hisのシャーレに**ヒスチジン**（10g/l）を

37ページ（「●X-gal溶液」3行目）

（誤）ジメチル**アルム**アミド
→（正）ジメチル**ホルム**アミド

40ページ（「6-3-8 アミノアジピン酸培地」4行目）

（誤）yeast nitrogen base w/o amino acid (Difco) **0.67g**

→ (正) yeast nitrogen base w/o amino acid (Difco) 0.16g

41ページ (「7. 液体培養における増殖速度, 世代時間の求め方」11行目)

(誤) OD=0.4以下となる濃度で測定する

→ (正) OD=0.5以下となる濃度で測定する

53ページ (「準備, TEバッファー」3行目)

(誤) 0.1M EDTA

→ (正) 0.1mM EDTA

54ページ (5行目)

(誤) 10) 0.6~1.2ml (1サンプルあたり0.3ml) のLA溶液を加え懸濁する.

→ (正) 10) 0.6~1.2ml (1サンプルあたり0.3ml) のLAG溶液を加え懸濁する.

65ページ (「準備, 1M Bicine-NaOH」)

(誤) Bicine (N-N-bis(2-hydroxyethyl)glycine) 26.3g

→ (正) Bicine (N-N-bis(2-hydroxyethyl)glycine) 16.3g

80ページ (8行目)

(誤) 3-AT (3-アミノトリアゾール)

→ (正) 3-AT (3-アミノトリアゾール, 3-3アミノ-1,2,4-トリアゾール)

116ページ (「方法」 10) の後に追加)

→ (正) 11) 70%エタノールでリンス後, 乾固する. →12) TEに懸濁後, RNaseを 1 μ l 加え, 37°Cで30分間処理する*2. (*2 大腸菌に形質転換する場合, RNase処理は省略できる.)

117ページ (「準備」最終行)

(誤) RNAase (1mg/ml)

→ (正) RNase (1mg/ml)